

平成15年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ソウハチ

学名 *Hippoglossoides pinetorum*

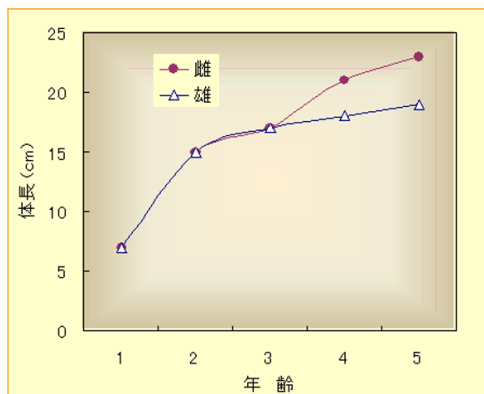
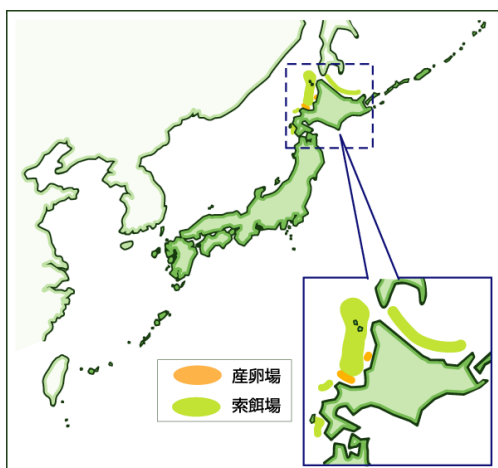
系群名 北海道北部系群

担当水研 北海道区水産研究所



生物学的特徴

- 寿命： 5歳以上
成熟開始年齢： 2歳
産卵期・産卵場： 5～9月(中心は7月)、主に奥平沖（水深60～80m）と増毛～留萌沖（水深60m）
索餌期・索餌場： 北海道の日本海側～オホーツク海側の陸棚域と水深300m以浅の陸棚斜面
食性： 成魚はイカナゴ、タラ類幼魚、その他の小型魚類、オキアミ類、クモヒトデ類、多毛類、イカ類、エビ類、二枚貝類
捕食者： 不明

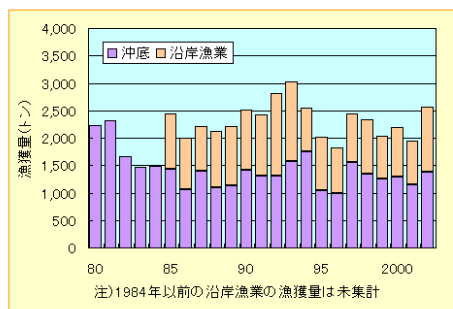
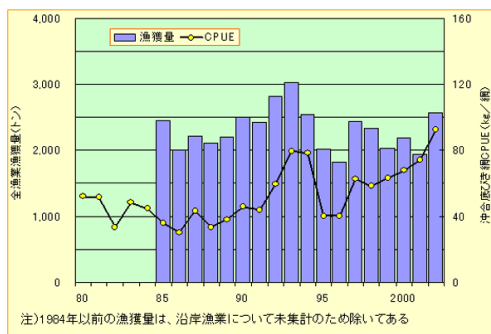


漁業の特徴

ソウハチ北海道北部系群は、日本海では主として沖合底びき網（沖底）と刺し網によって漁獲されている。沖底は10～3月に索餌群を、刺し網は4～7月に産卵群を漁獲する。オホーツク海でも、主に沖底と刺し網によって漁獲されているが、日本海に比べてその漁獲量は少ない。沖底の主漁期は9～12月である。また、両海域を合わせた漁獲量は、1985年以降比較的安定して推移している。

漁獲の動向

沖底と沿岸漁業を合わせた漁獲量は、1987年以降増加傾向を示し、1993年には1985年以降最高の3,032トンに達した。しかし、その後は減少に転じ、1996年には1985年以降最低の1,816トンに落ち込んだ。近年も減少傾向にあったが、2002年には1985年以降3番目に多い2,570トンに増加した。沖底および沿岸漁業の各漁獲量も、ほぼ同様の変化パターンを示しており、2002年の漁獲量は、それぞれ1,380トンおよび1,190トンであった。

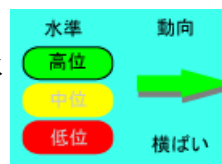


資源評価法

1993、1994年および近年における沖底のCPUEの増加は、ソウハチが主に分布する海域での操業の増加によるものと考えられている。そのため、これらの年における沖底のCPUEの変化は、必ずしも資源水準の変化を表すものではないと推察される。したがって、漁獲量の経年変化から資源状態を判断した。

資源状態

漁獲量は、近年減少傾向にあったが、2002年には過去18年間（1985～2002年）で3番目に高い値に増加した。そのため、資源水準および動向は、それぞれ高位で横ばいと判断した。



管理方策

資源状態が高位で横ばいにあるため、現在の資源水準を維持することを目標とした。漁獲量は、2002年に大幅に増加したが、それ以前は減少傾向にあったことから、ABClimitは、過去5年間の平均漁獲量とした。また、ABCtargetは、ABClimitに安全率である0.8を乗じた値とした。

	2004年ABC	管理基準	F 値	漁獲割合
A B C limit	22百トン	Cave5-yr	-	-
A B C target	18百トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 漁獲量の経年変化から資源状態を判断
- 漁獲量は近年減少傾向にあったが、2002年には大幅に増加したため、資源水準は高位、動向は横ばい

資源管理方策のまとめ

- 現在の資源水準を維持
- ABClimitは過去5年間の平均漁獲量、ABCtargetはABClimitの0.8倍

資源評価は毎年更新されます。